

2018年(平成30年)

第132号

(12月1日)

平安月報
The HEIAN monthly report

発行所：立正佼成会 京都教会
 発行責任者：渉外部長 田中規之
 編集委員長：渉外広報 植田恭司
 〒605-0041 京都市東山区三条東町 230
 TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

京都・滋賀・奈良3教会 壮年部交流法座 ～議論し活発な意見交換～

10月28日、奈良教会において京都・滋賀・奈良3教会壮年部交流法座が行われ、京都教会から29名の参加があり、法座を通して交流を深めました。

開式後、馬籠教会長から7月の台風で延期になった経緯と今回の開催趣旨説明があり、「観念の遊びではなく議論し意見を交わしあうことが大切であり、今回の法座で学んだことをご本尊の前で決意して頂きたい」と参加者に期待を寄せました。

奈良教会壮年部庶務の澤田氏が講師を務め、1度目の研修は「憲法9条改正案と平和主義について」。その中で、自民党の憲法改正の経緯や「必要な自衛の措置」の解釈、存立危機事態以外での集団的自衛権について、国民投票法など、弁護士としての立場から独自の見解を述べられました。それを受けて各班3名による「三人法座」で各自意見交換。活発な議論が交わされました。

休憩をはさんで2度目の研修では「開祖さまの平和観について」のDVDを放映。1980年代に説かれた庭野開祖のご法話は、現在にも通じるもので多くのことを学びました。



その後の各教会発表では、自教会に政治社会委員会があり、支部代表をしている兄が議員候補を導いたことの発表や、戦争するための徴兵ではなく青年を2年間自衛隊に入れることで、ダメになっている青年をしっかりとさせたいと持論を展開する発表。また今回の交流法座で自分が自覚的に発言出来たことや、超大国に守られている現状から自立するために、武力を身に付けて自衛するのか、あるいは日本国民の民度の高さで平和構築できないのか、そのために我々がどういう行動を起こせるのか、命の大切さ、ご先祖の大切さ、平和思想を大切にし、伝えていくことの使命を感じたなど様々な発表がなされました。

その後、3教会の壮年部長が今回の学びや謝辞を述べ、最後に馬籠教会長から「中道の見方でさまざまな方々と因縁を結んで日本を作って頂きたい」と結び、閉式しました。

午後からは三輪明神大神(おおみわ)神社を正式参拝し、自由散策後、現地解散しました。



時事刻々

2025年の国際博覧会(万博)の開催地に大阪(万博)の開催地に大阪が選ばれました。日本で開催される万博は、前回の大阪万博から五十五年ぶりになります▼多額の費用がかかると、反対する人も少なくなかったようです。しかし、開催が決まったからには、みんな成功するように応援したいものです▼日本で最初に博覧会が開催されたのは京都です。明治五(1872)年に、西本願寺・建仁寺・知恩院を会場として第一回京都博覧会が開催されたのです▼明治政府は明治十(1877)年に、第一回内国勧業博覧会を東京上野公園で開催しました。強い誘致運動の結果、第四回の開催地は京都になりました▼会場の岡崎に、工業館、美術館、動物館などが建てられました。会場への足として、日本最初の市街電車が走りました▼博覧会開催は京都の経済・文化の復興と再生に大きな役割を果たしました。大阪万博のテーマ「いのち輝く未来社会」を、次世代に残せるようにしたいものです。

平成30年、私たちは「勇気をもって 私らしく やってみよう」を実践して参ります。

今月のことば ～使命にめざめる～

京都教会長 佐藤益弘

平成30年、教団は創立80周年を迎えることができ、多くの皆さまのお陰さまをもちまして、有意義な一年となりました。ここにあらためて感謝を申し上げます。

さて、機関誌『佼成』12月号では、会長先生から、「使命にめざめる」というご法話をいただきました。本年5月から「八正道」の徳目の一つずつ取り上げてくださり、今月はよいよその最後である「正定(しょうじょう)」についてのご法話を頂戴しました。とくに私は、『『正定』とは、心が常に仏の教えに安住していて、周囲の変化によって動揺しないことと受けとめられますが、たとえ貧しくても悲観せず、そこにある幸せを精いっぱい感受する…』という心を持つことが肝心であると学ばせていただきました。

冒頭に、福井に生まれた幕末の歌人である橘曙覧(たちばなあけみ)の歌を紹介してくださいました。私は以前に福井で3年間生活させて頂いたとき、橘曙覧が残された和歌(生涯1,200首以上を残された)の『独楽吟』と題された52首の連作にふれることができました。そのいずれも「たのしみは…」で始まり、「…するとき」で締めくくられています。その中から会長先生がご紹介くださった「たのしみは 朝おきいでて 昨日まで 無かりし花の 咲ける見る時」という歌が、私は一番好きです。

ちょっとした変化のようで実は大きな変化でもあり、なんだか嬉しい気持ちになります。こういう物事の変化に敏感であり、且つ花という縁にふれる自分との関係(つながり)を楽しむ、悦ぶ、感謝する気持ちになれるよう、日常生活において自分の心を耕し、育てることが大事であると思いました。

立正佼成会では、「ご供養」、「導き・手どり・法座」「ご法の習学」を三つの基本信行として努めさせて頂いています。特に朝夕のご供養をさせて頂く際、本会經典のはじめにある『無量義経十功德品第三』というお経が「正定」になるために欠かせないと思うのです。

なぜなら、そのお経の最初に「佛の言わく、善男子、第一に、是の経は能く菩薩の未だ發心せざる者をして菩提心を發さしめ…」とあります。まさに180度の変化がもたらされるのです。仏の子らしくならせて頂こう、人間本来の生き方に目覚めようという心をもち続けることが毎日の自身の努力、精進によって叶うからであります。

仏・法・僧の三宝のお陰様で着実に変化し、やがては心も大きく、豊かになり、「正定」な心で人生を歩めるようにならせて頂けるのだと思います。しかも、自分だけではなく、万人が救われますようにとの釈尊の願いに沿い、今月のご法話の最後にお書き頂いている「仏の教えをとおして人間らしい生き方を学んだ私たちは、仏への道を歩みつつ、一人でも多くの人の仏性開顕という使命を果たしていきたいと思ひます」というご指導を心に刻み、修行精進させて頂きます。

会長先生から「正」の字は、「一」と「止」が組み合わさってできているので、「一」＝「真理」である。よって「真理に止まる」という意味であると教えて頂きました。とても大事なことと受けとめました。

佼成会では12月が新年の始まりと言われております。そういう意味では「一」であり、平成30年の締めくくりの月でもありますので「止」でもあります。これからも菩薩としての使命にめざめ、「八正道」の教えにそった精進をさせて頂こうという誓願をもって、平成31年をお迎えしたいと存じます。 合掌

七五三式典開催 ～皆で健やかな成長を願う～

七五三の式典が11月11日、京都教会法座席で行われ、そのご家族や会員が多数参加しました。

開式後、勸請文奏上、メッセージ代読、ミニゲーム、千歳飴贈呈、佐藤教会長お言葉と続き、勸請文奏上の中では対象となる19名の名前を佐藤教会長が読み上げました。

ミニゲームは裏返した色分けされたカードを合わせていくというもので、子供たちがそれに夢中。会場は大いに賑やかになりました。

その後、佐藤教会長から千歳飴の贈呈、お言葉を頂きました。教会長はお祝いの言葉の中で、千歳飴を渡した際、みんなが「ありがとう」と言ったことに触れ、ありがとうと言える人を仏さま、神さまは大好きで、大人になってもありがとうと言える人になってほしいと述べ、お父さん、お母さんにもありがとうと言えるように、そして立派な人間になっても

らいたいと励ましました。

式典後、青壮年部で纏と万灯及び参拝者の中から笛、鐘が参加。お祝いの式典に華を咲かせました。



大歓喜の集い ～先輩方々へ感謝を込めて～

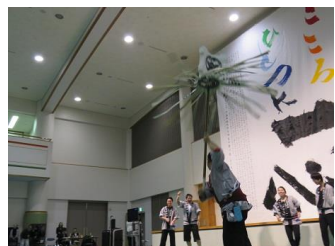
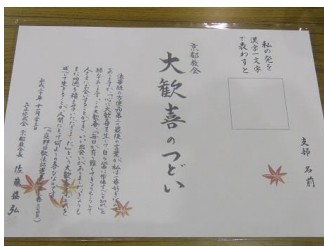
大歓喜の集いが11月23日の午後、京都教会体育館で行われ、約400名の会員が参加しました。テーマは「教団創立80周年を迎えて 先輩方々へ感謝を込めて」。多くの古参会員が招待されました。

開式後の佐藤教会長の挨拶で「現在の京都教会があるのも先輩会員さんのご修行があればこそ。私たちは感謝し、来年の京都教会発足60周年を迎えたい」と述べると、会場からは大きな拍手が起こりました。

その後、川崎壮年部長が乾杯の挨拶を行い、歓談・食事を楽しみました。

纏・太鼓のコラボレーション演舞や各支部発表、カラオケ、私の「発」発表など、多彩な催しがあり、参加者は終始拍手を送り続けました。

「みんなで踊ろう！！ DA PANP USA」では舞台上に青年部が、会場の参加者は手の動きだけで踊りに参加し、皆が一体感を味わうことが出来ました。



宿直者の集い ～グループ討議で活発な意見交換を行う～

平成30年の宿直者の集いが11月23日午前、京都教会研修室で行われ、約40名の宿直者が参加しました。

読経供養後、先日ご本部で開催された壮年総会の映像を拝聴し、グループ討議、発表を行いました。

グループは支部を超え、宿直班の現状報告をすると共に、課題や解決の道を探りました。発表では支部で助け合って運営していくことの大切さ、支部を超えて手取りに行くことの必要性、教会設備の活用など、

さまざまな意見が出されました。

佐藤教会長は自身が学生時代に宿直を通して学んだことを述懐し、学生の方にも宿直に入って頂けるように促されました。

また青年幹部会で光祥さまが述べられたお言葉の中から、人は誰とでもつながることができ、それが菩薩として本来の生き方だと説明されました。

来年は京都教会発足60周年であるため、さらに宿直のネットワークを広げて頂きたいと結ばれました。

日常生活の中の仏教用語 ～えっ？こんな言葉も仏教が語源？～

今年から始まる新コーナー。言葉のルーツを知って仏教に親しみを持ちましょう。

【法被（はっぴ）】

着物の上に着る、裾の短い上着。職人の仕事着や、祭りのときの印半纏（しるしばんてん）と混同されるが、正しくは法被のほうが格が上である。

胸にひもをつけるための乳（ち）があるのが法被で、半纏にはない。近世には、下級武士たちも法被を着ていた。

本来は衣服ではなく、寺院の本堂須弥壇の正面や高僧が坐る椅子の背にかけ、金欄（きんらん）などの豪華なかけ布を指す。

これがどうして上着の名前になったのかは、はっきりとはわからない。上からふわっとかけるから「はっ被」→「法被」となったという説もあるが…。

（「仏教早わかり百科～主婦と生活社～」から抜粋）

記事募集のお知らせ

読者のみなさんから記事や写真・絵を募集します。年齢、性別は問いません。教会までお送り下さい。

- ・平成最後の天皇誕生日での出来事
- ・今年一年を振り返って

庭 野 日 敬 開 祖

法 話 集

～開祖隨感より～

【百パーセントの正直】

「月と日のかしこみなくばよりよりの人見の関は越えられべけれ」という歌があります。どんなに人が目を光らせていようと、人見の関はどこかくぐって越えられるけれども、昼夜交代で見ておられるお日さまとお月さまの目はくぐり抜けられない、という意味でしょう。神仏がすべてご照覧だと本当に分かったら、だれが見ていようがいまいが、百パーセント正直一本やりでいくしかありません。人の信念というのは、「自分にはぜったいにごまかしがない」という、その自信から生まれてくるものだといえましょう。

拝む心こそ、拝まれるに値する心だといえます。人を拝む謙虚さ、神仏に合掌してその願いをわが願いとさせていたきたいと祈る姿ほど、美しい姿はありません。『懺悔経』と呼ばれる『仏説観普賢菩薩行法経』に、「深く因果を信じ、一実の道を信じ、仏は滅したまわずと知るべし」という言葉があります。

因果の道理を深く信じ、現象の奥にある実相を信じて、仏さまはいつも自分と一緒にいられて、滅しられることはないのだと知ると、神仏の前に自分をさらけださずにいられなくなります。それでこそ、だれからも信頼される信仰者となるのです。

【おはからいのままに】

いつも申し上げるように、信仰する人のいちばんの幸せは、仏さまがすべてご照覧だと信じていられることにあります。けれどもときどき、「こんなに一生懸命がんばったのに」「あんなに真剣に祈願したのに」「仏さまは私をお見捨てになったのではないか」と、絶望に打ちひしがれることもあると思うのです。しかし、仏さまはどんなときも、この患難の多い世でのあなたを、しっかりとお見守りくださっておられるのです。

私たちは神仏にお祈りするとき、自分の欲しいもの、自分の願いがかなうようにとお願いしますが、仏さま

は、私たちの欲しいものでなく、必要なものをお与えくださるのです。自分の力ではどうにもならなくなったとき、人はだれしも病気を治してください、子どもが受験に合格しますようにと神仏にお願いするのですが、そのあとに必ず、「でも、み心のままに」とつけ加えることを忘れないようにしている、という人がおられました。仏さまのおはからいにおまかせしてしまうと、どんな結果であっても、ある時を経て「これがご守護だったのだ」と思い知るときが、必ずくるのです。悲しみや絶望を通してこそ得られる宝物もあるのですね。かつての自分といまの自分の心がどんなに違ってきているか、周囲がどんなに変わったか、振り返ってみると積んだ善根がそっくり自分に返っているのに気づかずにいられないはずですよ。

【最高の功德】

蓮の花が開くと、その花の中にすでに実が生じています。それと同じように、因と果は同時というのが仏教の考え方です。悪事を犯しても人に見つからなければ罰を受けずに済む、と考えたら大間違いです。良心の呵責で、眠ることもできなくなってしまいます。反対に、せっかく善根を積んでも、だれも評価してくれないと考える人がいますが、これも間違いです。

人さまに喜んでもらえる奉仕をされた人は、よくご存じのはずですが、善いことをすると、言いようのない喜びがわいてきて、心が清々としてなんの心配もない日々を過ごせます。中国・南朝の梁の始祖である武帝は、仏教に帰依して各地に多くの寺院を建立しました。あるとき達磨大師に、「余が多くの寺院を寄進したその功德は」と尋ねると、達磨大師は言下に「無功德」と答えられたのでした。なにか目に見える功德ばかりが功德ではなく、善根を積める自分になれた喜び、晴れ晴れとした心で毎日を過ごせる喜びこそが最高の功德です。
(つづく)

12～1月の主な教会行事

12月1日(土)	9:00～	朔日参り
4日(火)	9:00～	開祖さまご命日
5日(水)	9:00～	教会発足59周年記念
8日(土)	9:00～	成道会
10日(月)	9:00～	脇祖さまご命日
15日(木)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日
23日(日)	9:00～	教会大掃除
1月1日(火)	6:30～	元旦参り
4日(金)	9:00～	開祖さまご命日
7日(月)	9:00～	御親教
10日(木)	9:00～	脇祖さまご命日
15日(火)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日
20日～27日	6:00～	寒中読誦修行

●メッセージ

今月から東京・普門館の解体工事が始まります。昭和45年に落成し、全日本吹奏楽コンクールが開催され、「吹奏楽の甲子園」と言われ続けたことはあまりにも有名です。5,000人収容で、交通アクセスも便利で、バス駐車場もあることから主催者側からは重宝されたに違いありません。私自身も小学生の頃、初めて普門館に入り、天井に丸い物体が沢山あることに不思議さを覚えました。実は「残響時間可変動装置」であり、催しもの内容によって最良の音響状態を作り出せるというもので、昭和45年当時、この設備を備えていたのは数少なかったそうです。伝説の施設が無くなってしまふのは残念ですが、私たち自身が伝説の人になれるよう、修行精進に励みたいものです。